

統括保健師制度および看護師の自己効力感に関する文献的な整理と考察

研究分担者 金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域 岡本理恵

研究要旨

自治体栄養士養成プログラム開発の資料とするため、自治体で働く技術専門職である保健師の統括保健師制度および、看護師の自己効力感の関連要因を明らかにすることを目的に、制度の背景やしきみ、現行の課題について文献検討により整理と考察を行った。

統括保健師制度の実態：「統括保健師」、看護師の自己効力感関連要因：「自己効力感」「看護師」を検索キーワードとしそれぞれ文献検索を行った。統括保健師配置の目的は「保健師の保健活動を組織横断的に総合調整及び推進し、技術的及び専門的側面から指導」を行うことである。2020（令和2）年度の調査で統括保健師を配置していた都道府県は100%、市町村で49.9%であった。統括保健師制度は各自治体の現状にあった統括保健師の役割や位置付けを検討し、職場内でのコンセンサスを得ることが、効果的な運用を行うために必要であることが示唆された。今後は統括保健師配置の成果について質的に評価していく必要がある。

看護師の自己効力感関連要因：該当文献は221件であった。自己効力感に関連していたのは、年齢が高い、役職がある、学歴が高い、既婚である等であった。患者や他職種との信頼関係の構築、レジリエンスや職務継続意思にも関連していたことから、今後は自分のしている仕事から自組織の使命や存在目的に意味を持つというワークエンゲージメントの視点がより必要となる。

A. 目的

自治体栄養士養成プログラム開発の資料とするため、以下の2項目について文献検討を行った。

- 1) 自治体で働く技術専門職である保健師の統括保健師制度の実態
- 2) 看護師の自己効力感に関連する要因

B. 研究方法

医学中央雑誌で検索キーワードを行った。

1) 統括保健師制度の実態：「統括保健師」を検索キーワードとし文献検索を行った。2012年から2020年の会議記録を除く51件が検索された（実施日2021年3月19日）。他に厚生労働省の通知や報告書、公益社団法人日本看護協会の統括保健師に関連するページを閲覧した。統括保健師に関する統計情報は厚生労働省が実施している保健師活動領域調査（領域調査）報告を使用した。

2) 看護師の自己効力感関連要因：「自己効力感」「看護師」を検索キーワードとし文献検索を行った。その中から看護師を対象とする論文についてキャリア（学生、新人、

中堅、管理者）別に分類した後、関連要因について分類を行った（実施日2022年3月19日）。

C. 研究結果

1) 統括保健師の実態

2013（平成25）年厚生労働省局長通知「地域における保健師の保健活動について」により、地域における保健師活動のさらなる推進を図るため、「保健師の保健活動を組織横断的に総合調整及び推進し、技術的及び専門的側面から指導」を行う統括保健師を配置するよう努めることとされた¹⁾

日本看護協会では、2014（平成26）年度と2015（平成27）年度は「統括保健師人材育成プログラム」^{2、3)}、2016（平成28）年度は各都道府県での統括保健師の配置状況や現任教育体制等のニーズに即した活用を念頭に「市町村統括保健師人材育成プログラム」を開発した⁴⁾。

厚生労働省が毎年実施している保健師領域活動調査（領域調査）によると、2020（令和2）年度の調査で統括保健師を配置していた都道府県は100%、市町村は49.9%であった⁵⁾。2015（平成27）年から2020（令和

2) 年の6年間の設置割合の推移をみると、都道府県では2018(平成30)年に100%となったが、保健所設置市、市町村では横ばい傾向であり、特別区は2019(令和元)年に比べ2020(令和2)年の割合は減少した⁶⁾。

(図1)

曾根らは平成29~30年度地域保健総合推進事業「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」において統括保健師を対象とした「効率的・効果的な保健活動に関する留意点」を作成した^{7, 8)}。大項目は以下の4項目から成る。

- ① 人材育成の課題を明確化し、課題を踏まえて人材育成を推進する。
- ② 円滑な保健活動を推進するために統括的な管理・調整をする。
- ③ 統括保健師の位置づけと役割が実施できる体制整備に自ら取り組む
- ④ 災害発生時の統括保健師の役割を明確化し、発災に備えて当該自治体の体制整備に関与する。

2) 看護師の自己効力感に関連する要因

看護師の自己効力感に焦点を当てた文献件数は221件であった。内訳をみると、看護師のキャリアに関する文献が81件と36.7%を占めた(表1)。中でも新人看護師を対象とした文献が最も多く35件であった。

自己効力感の関連要因を分析した文献を10件選択し内容を確認したところ、看護師の一般自己効力感(GSES)は女性看護師の調査では一般女性と比較して低い傾向が認められた⁹⁾。自己効力感は年齢や経験年数を経るにつれて高くなっていた^{10) 11)}。自己効力感が高い要因として短期大学、看護系大学出身であること、隣地実習指導者等の役割を持つこと、既婚であること等が挙げられた^{11) 12)}。患者や他職種との信頼関係の構築も自己効力感に関係していた¹³⁾。就職直後の新卒者の自己効力感の高さには対人関係を円滑に運ぶためのスキルや学生時の実習での肯定的体験が影響していた¹⁴⁾。しかし新人看護師の職業キャリアの成熟に関しては自己効力感との関連は認められなかった¹⁵⁾。また、自己効力感は女性中堅看護師のレジリエンスや看護師の職業継続意思にも関連していた^{16) 17)}。

D. 考察

1) 統括保健師は教育プログラムや留意点等の目指すべき姿やその教育体制の枠組み

は構築されつつある。統括保健師の配置がなされている自治体の方が教育体制整備なされていることに関して、鎌田らは統括保健師による組織の現任教育体制整備推進の成果である可能性がある¹⁸⁾。今後はこのような統括保健師配置の成果について質的に評価していく必要がある。

2) 女性看護師の自己効力感を経験を経て役職を得、自分のポジションが明確になることで向上していた。職場環境を整えることで自己効力感やレジリエンス、職業継続意欲を高められることが示唆されたことから、今後は自分の行っている仕事がい組織の使命や存在目的に意味を持つというワークエンゲージメント¹⁹⁾の視点がより必要となる。

E. 結論

統括保健師配置の成果については今後も注視していく必要がある。看護師の自己効力感には経験年数や役職の有無の他、職業継続意識等が関連していた。

参考文献

- 1) 労働省健康局長(健発0419第1号): 地域における保健師の保健活動について. 2013.
- 2) 日本看護協会: 平成25年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業 統括保健師人材育成プログラム実施報告書. 2014. <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-tokatsuhokenshi.pdf>
- 3) 日本看護協会: 平成27年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書 統括保健師人材育成プログラムの開発~2年間の試行を踏まえて~. 2015. https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2016/jinzaiikusei_program.pdf
- 4) 日本看護協会: 平成28年度厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業報告書 市町村統括保健師人材育成プログラムの実施~今後の展開に向けて~. 2016. https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2017/28_shichoson.pdf
- 5) 厚生労働省. 令和2年度保健師活動領域調査(領域調査)結果の概要. 2020. https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/dl/ryouikichousa_r02_1.pdf

6) 厚生労働省. (平成 27-令和元年度) 保健師活動領域調査 (領域調査) 結果の概要. 2015-2020.

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/hoken/katsudou/09/index.html>

7) 日本公衆衛生協会:平成 29 年度地域保健総合推進事業「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」中間報告 (分担事業者:曾根智史)総合報告書. 2018. http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_h29_01.pdf

8) 日本公衆衛生協会:平成 30 年度地域保健総合推進事業「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」総合報告書 (分担事業者:曾根智史)総合報告書. 2019.

http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu04_2_h30_01.pdf

9) 小谷野 康子. 看護婦の自己効力の特性とその関連因子. 聖路加看護学会誌 1999;3(1):78-84.

10) 境 俊子, 富樫 千秋. 中堅看護師の自己効力感に影響する要因. 日本健康医学会雑誌 2017;26(2):65-73.

11) 児玉 裕美, 石田 智恵美, 安酸 史子. 中堅看護師の新人看護師への教育的役割行動と自己効力感の関係. 産業医科大学雑誌 2017;39(4):299-308.

12) 鳥 トキエ, 夏原 和美, 尾岸 恵三子. 看護管理者のセルフ・エフィカシーと勤務状況との関連. 日本看護学会論文集:看護管理 2014(44):337-40.

13) 矢田 浩紀, 小林 眞子, 大達 亮, 他. 精神科看護師の自己効力感に関連する要因. 産業医科大学雑誌 2017;39(3):229-34.

14) 片山 忍, 小澤 三枝子. 看護学実習における相談行動や就職直後の自己効力感に関連する因子の検討. 国立看護大学校研究紀要 2018;17(1):19-28.

15) 加納 さえ子, 津本 優子, 内田 宏美. 初期キャリア看護師の職業キャリア成熟度と背景要因. 島根大学医学部紀要 2016;38:63-73.

16) 根木 香代子, 片山 はるみ. 女性中堅看護師のレジリエンスに対する自尊感情と自己効力感の影響. 日本看護科学会誌 2018;38:89-96.

17) 大久保 和代, 武田 道子. 看護師の職業継続意志に影響する職場環境および自己効力感の要因. 日本看護学会論文集:看護管理 2019(49):135-8.

18) 鎌田 久美子, 村中 峯子:【令和時代の保健師キャリアを目指して】「平成 30 年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査」の概要 保健師の人材確保・定着・育成に向けて. 保健師ジャーナル. 75(5):370-377. 2019.

19) 高橋 好江, 武村 雪絵, 市川 奈央子. 仕事におけるエンゲージメントの概念整理と今後の方向性 組織で働く看護職の特性を踏まえて. 日本医療・病院管理学会誌 2021;58(4):96-104.

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

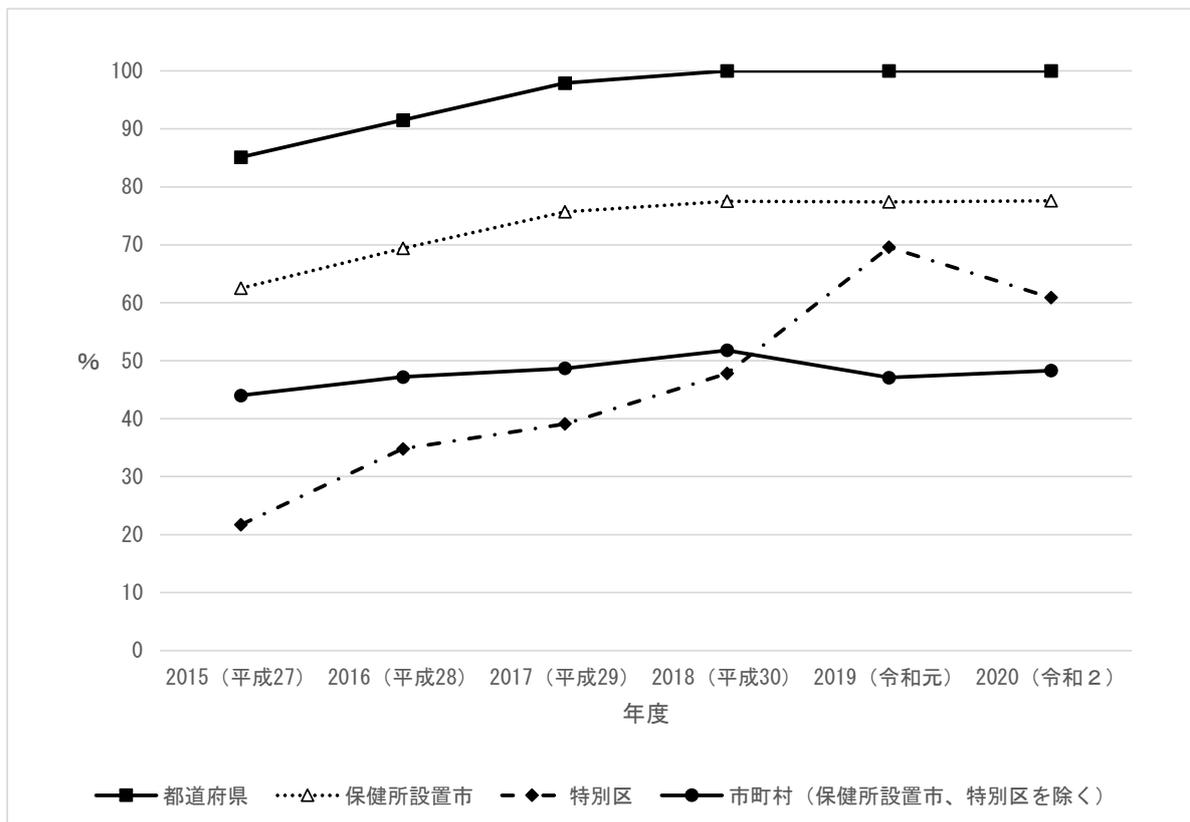


図1 統括保健師を配置している自治体割合の推移

表1 職種別自己効力感をキーワード検索して得られた文献数

職種	【検索キーワード】	うち、各職種 を研究対象 とした文献 数 (件)
	「自己効力感」「職種名」(原著)でヒットした文献数 (件)	
看護師	622	221
助産師	70	26
保育士	27	15
保健師	57	13
栄養士	53	6
多職種	42	6
医師	118	0